

都道府県番号	44
都道府県名	大分県

()

・学校名及び規模

姫島村立姫島小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1		6	10
児童数	24	24	30	26	28	28		160	

・実践研究の概要

- ・主題(テーマ)
 - 一人ひとりが楽しく取り組む算数学習
～きめ細かな学習指導の工夫～
- ・テーマ設定の趣旨
 - (1) 学校教育目標から
 - 本校では、「一人ひとりを大切にし、自ら学ぶ力を身につけ たくましく 心豊かに生きる児童を育てる」を教育目標に掲げ、
 - 「思いやりをもつ子ども」
 - 「よく考え とともに伸びる子ども」
 - 「健康で たくましい子ども」を児童像に設定している。
 - その実現に向けて、私たちは日々の授業および教育活動全般において、子どもが生き生きと学校生活を送られるように努めなければならない。そのためには、互いの良さを認め合う学級集団づくりや一人ひとりが意欲的に活動をする授業づくりが必要である。そして、子どもを中心にすえて「一人ひとりが生き生きと活動に参画できる」ように、学校教育目標の具現化に努めていこうと考えている。
 - (2) 子どもの実態から
 - 【学習から見て】
 - 教師から指示された課題や作業などについてはまじめに取り組もうとする。
 - 自ら課題を解決しようとする意欲が十分でない。
 - 基本的な学習内容が十分に理解できていない子どもがいる。
 - 家庭学習の習慣が身に付いていない子どもがいる。
 - 【算数科の学習から見て】
 - 算数の好きな子ども(どちらかというときを含む)の割合は ()は昨年度4月調査
 - 1年・・・100%(-) 2年・・・87%(75%) 3年・・・100%(53%)
 - 4年・・・85%(69%) 5年・・・64%(46%) 6年・・・79%(50%)
 - と、前年度と比較して各学年とも増加している。
 - 好きな理由として、
 - ・2人の先生が分かりやすいようにやさしく教えてくれるから
 - ・週に2回、3人の先生が教えてくれるし、他の曜日にも絶対2人の先生で教えてくれるから
 - ・ゲームのように楽しくできるから ・算数セットが使えるから
 - ・問題が解けたら楽しいから ・計算が好きだから などであった。
 - これは、本年度より全学年にTTによる学習形態を取り入れたり、今年も積極的に算数的な活動を取り入れたことなどが関係していると思われる。
 - 反面、嫌いな理由として(どちらかというときを含む)
 - ・難しくなったり、わからなくなったりしたから
 - ・図形や文章問題が苦手、割合が難しいから
 - ・計算が苦手だから
 - などである。
 - 高学年になると、難しさや複雑さが加わり、具体的なものから抽象的なものへと発展し、徐々に算数の学習で満足感を味わうことが難しくなっている。
 - “できた”“わかった”という満足感を味わわせ、研究主題に近づくためには、より個に応じたきめ細かな学習指導を工夫していく必要がある。

(3) 今までの研究から

昨年度T T教員が配置され、T Tによるきめ細かな指導で算数の基礎学力の定着に取り組んできた。その中で、一人ひとりの基礎学力を調査しての回復指導、レディネスをとらえての教材と児童を近づける工夫、算数的な活動の取り入れ、T Tを生かした個別への対応やコース別学習の取り組みなど、きめ細かな指導を創意工夫し実践してきた。

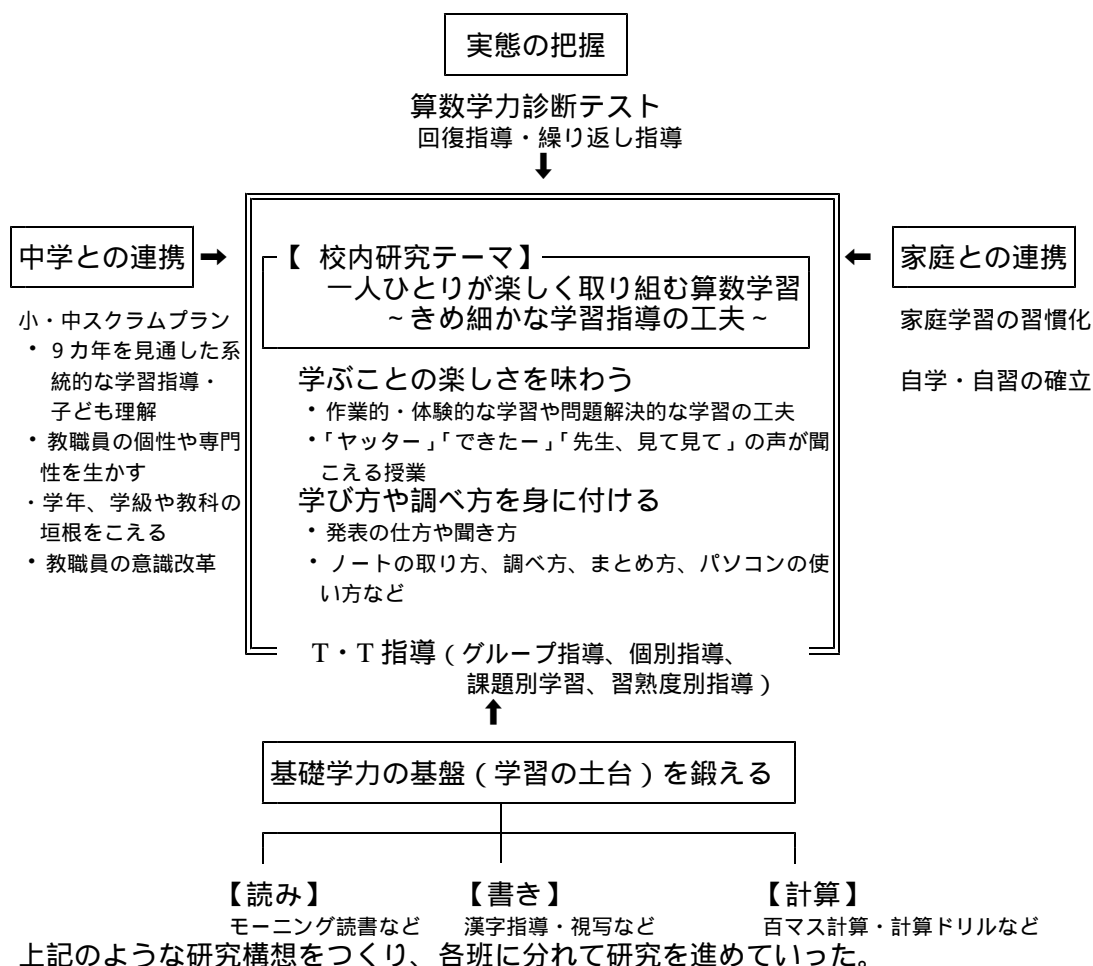
本年度本校は学力向上フロンティア推進事業の指定を受けた。今年度より3年計画で、新しい学習指導要領の趣旨の実現に向けて、基礎学力の向上の観点から、個に応じた指導方法等の工夫改善に取り組んでいきたい。

(4) 地域との連携から

本校では、平成5年度より協力校として姫島中学校と研究・実践の交流を進めてきている。また、姫島村学力向上対策協議会(平成3年12月発足)で、保育所・幼稚園・中学校、各所・園・校のPTA、及び教育委員会と連携しながら、読書力を高める取り組みを進めている。

実践研究の内容について

() 研究体制の工夫
研究の全体構想



() 実践研究の内容

1. きめ細かな学習指導(算数)の工夫の取り組み
- (1) 授業研究(算数的活動の取り入れ・T Tによる学習形態の工夫)
 - 3年「かけ算の筆算(1)」
 - 4年「小数」
- (2) 講演・講話による校内研究会

「先進校日田市立光岡小学校の実践に学ぶ」講師 光岡小学校長 合谷勝彦 先生
「基礎基本が定着する学習指導と家庭学習課題のあり方」
講師 別府大学短期大学部教授 恒松 栖 先生

- (3) 「単元(授業)構想の視点と手だてづくり」の取り組み
- 2. 実態把握の取り組み
 - (1) 診断的学力検査(NRT)算数の分析と対策
 - (2) 学力診断テスト「計算テスト」の取り組み
 - (3) 観点別到達度学力検査(CRT)算数の分析と対策
- 3. 基礎学力の基盤(学習の土台)を鍛える取り組み
 - (1) 「読み・書き・計算」を発達段階に応じて鍛える
 - (2) 保育所・幼稚園・中学校・PTAと連携して「読書力」を育てる
- 4. 中学との連携の取り組み
 - (1) 小中連携推進委員会の設置と小中スクラムプランの作成
 - (2) 教職員の交流
 - 小学校から中学校へ 中1～中3 数学TT 中1～中2 技術情報TT
 - 中学校から小学校へ 小4～小6 音楽専科 小6 算数TT
- (3) 研究の交流
 - 小中合同校内研究会の実施(年間3回)
 - 小中教職員のTTによる提案授業・授業研究(中1数学「比例のグラフ」)
 - 小中の各校内研究会への参加
- (4) 児童・生徒の交流
 - 幼小中連合体育大会での児童会・生徒会の共同企画
 - 姫島中文化祭への5～6年生の出場
 - 6年生の姫島中学校体験入学
- 5. 家庭との連携の取り組み
 - PTA全体会、学級懇談会、個別懇談の実施
 - 家庭での読書運動や基本的な生活習慣の育成の取り組み
- () 成果と課題
 - 1 成果
 - 全国標準学力検査NRTにより個々の児童や学級全体の学力の状況を客観的に把握し、その実態に応じて回復指導や補充指導を実施した。その結果、少しずつではあるが基礎学力が定着してきている。(2月上旬に教研式標準学力検査CRTを実施したので、その結果が出て客観的データに基づいた成果が明確になる。)
 - 全学年の算数をTTで実施することにより、確かな学力向上のための多様な個別指導を実施したことにより児童の学習意欲が高まり、学力が向上してきている。
 - 小中連携で教員の専門性を生かした指導や児童・生徒理解が進んだ。
 - 2 課題
 - 習熟度別学習に向けて教職員で共通理解をし、保護者の理解や協力をどう得ていくかが課題である。
 - 望ましい生活のリズムや家庭学習の習慣化なども学力の向上と関係してくるので保護者との連携をより一層密にする必要がある。
- () 成果の普及方策
 - ・平成16年度 公開研究発表会予定
- () その他